

令和5年度阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会 議事概要

日時：令和6年2月13日（火）13：30～15：30

場所：阿寒湖まりむ館

議事

- (1) 今年度実施事業の結果報告
- (2) 今後の情報共有のあり方及び仕組み検討について
- (3) 次年度の予定
- (4) その他

<出席者一覧>

1. 構成員

所属・役職	氏名
環境省釧路自然環境事務所 統括自然保護企画官（議長）	岡野 隆宏
林野庁北海道森林管理局 計画保全部保全課 野生鳥獣管理指導官	三浦 晋仁【Web】
根釧西部森林管理署 地域林生調整官	吉岡 英夫
網走南部森林管理署 総括地域林政調整官	齋藤 順一
十勝東部森林管理署 次長	菅野 将司
北海道環境生活部自然環境局 野生動物対策課 エゾシカ担当係長	仲澤 健【Web】
北海道オホーツク総合振興局 保健環境部環境生活課 主事	笹川 絵莉子【Web】
北海道釧路総合振興局 保健環境部環境生活課 自然環境係長	川島 新
北海道釧路総合振興局 保健環境部環境生活課 技師	竹田 理紗
北海道十勝総合振興局保健環境部環境生活課 技師	榎本 花【Web】
清里町産業建設課 課長	北川 実
清里町産業建設課 産業振興グループ 主事	氏川 享祐
小清水町産業課 農業振興係 主任	清水 諒輔
弟子屈町農林課 林務係 係長	西内 博光
弟子屈町農林課 林務係 主事補	小野寺 達也
白糠町経済部経済課 林業係 主査	山崎 蓮
鶴居村産業振興課 林政係長	黒崎 浩史
鶴居村産業振興課 鳥獣対策員	桂川 裕介
一般財団法人前田一步園財団森林保全課 課長	酒井 賢一
一般財団法人前田一步園財団森林保全課 主事	時田 勝広

2. オブザーバー

林野庁北海道森林管理局 計画保全部計画課 自然遺産保全調査官	工藤 直樹【Web】
計画保全部計画課 保全調整係長	塩谷 昌土【Web】
釧路市産業振興部農林課 阿寒農林振興 主幹	吉田 忠史
釧路市阿寒町行政センター市民課 課長	森 昌弘
津別町産業振興課 林政係 主任	高橋 次郎
津別町産業振興課 農政係 主任	上原 悟
美幌町経済部農林政策課 耕地林務グループ 主事	西川 慶士【Web】
大空町産業課 耕地林務グループ 主査	水野 正樹
大空町産業課 耕地林務グループ 主事	佐々木 佑弥
JR 北海道釧路支社（技術）施設グループ グループリーダー	森 英義
JR 北海道釧路支社	中島 直裕

3. 有識者

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 自然環境部 道東地区野生生物室長	長 雄一
地方独立行政法人北海道立総合研究機構 自然環境部 生物多様性保全グループ 主査（野生動物保全）	稲富 佳洋
学校法人酪農学園大学 環境共生学類 生物多様性保全研究室 准教授	立木 靖之

<環境省・事務局>

環境省釧路自然環境事務所国立公園課 国立公園企画官	柳川 智巳
同 生態系保全等専門員	上畑 華菜
同 阿寒摩周国立公園管理事務所 国立公園調整官	田中 準
同 国立公園管理官	山岸 潮音
同 同 阿寒湖管理官事務所 国立公園管理官	日比野 晃裕
環境事業計画株式会社 代表取締役	武藤 稔
同 マネージャー	勝井 玲

<意見概要>

発言者	内容
環境省 柳川	開会挨拶 阿寒摩周国立公園を含む広範囲においてエゾシカを管理するためには関係機関の皆様との連携が不可欠。本協議会では今年度各機関が実施した事業の実施状況と結果報告及び来年度以降の方針について報告する。
環境省 岡野	本日の進行を務めさせていただく。北海道全体でエゾシカの増加が確認され、農林業や交通に大きな影響を与えている。具体的な取り組みと情報共有を行っていききたい。 議事1について、環境省から説明をお願いする。
(1) 今年度実施事業の結果報告	
環境省 柳川	資料1の説明 令和3年度から令和7年度までの5ヶ年計画について、黄色は計画通りに実施されたもの示し、黄色で塗られていない項目は予算の都合上実施出来ていない。緑は当初計画より変更があったものを示している。後ほど議事4にて詳細を説明する。 令和5年度の地区共通の項目である、協議会運営、モニタリング、情報共有に係る検討及び、阿寒地区の取り組みについては概ね計画通り実施。防除対策については令和4年、令和5年と予算の都合上実施できなかった部分がある。それ以外の事項については計画通り実施。隣接地区の防除・捕獲対策については協議会構成員の皆さんで実施頂いている。
三共コンサルタント 一戸	資料2 ①-1の説明 今年度は屈斜路湖北西岸、屈斜路湖中島、阿寒湖畔ボッケ、ポンポン山で植生調査を実施。また、雌阿寒岳及び阿寒富士、摩周第一展望台及び西別岳の登山道においてエゾシカの痕跡調査を実施。 ポンポン山では丈の低い植生であることから、シカによる植生への影響を把握することが困難。しかし、周囲ではエゾシカの足跡や糞、骨も確認されている。
環境事業計画 勝井	資料2 ①-2の説明 屋外では前田一歩財団が実施している囲いわなの見学、待ち伏せ猟に適した場所・方法についての説明。室内にて情報共有について意見交換、非積雪期の捕獲手法について埼玉県・静岡県での事例紹介を行った。
環境事業計画 勝井	資料2 ①-3の説明 令和4年度にGPS首輪を装着した9個体について、行動追跡を実施。阿寒湖周辺でGPS首輪を装着した個体の多くが阿寒湖周辺で過ごすことが分かった。うち3個体は国立公園外にも活動範囲を持つ。多くの個体が夏季に国立公園外、冬季は国立公園内で過ごす傾向にある。

7-5 エゾシカ協議会 議事録

環境事業計画 勝井	資料2 ①-4の説明 ・メッシュ別捕獲数について 許可による捕獲において、隣接地区では弟子屈町における捕獲数が多い。国立公園内の捕獲数は少ない。 狩猟による捕獲でも、許可による捕獲と同様の傾向にある。隣接地区外では阿寒町で捕獲数が多い。国立公園内の捕獲数は少ない。 ・ライトセンサスについて 協議会構成員である 12 市町村について調査結果を取りまとめた。昨年度と比較して8つの市町、32 コース中 13 コースで目撃数が増加。
環境省 上畑	資料2 ①-4の説明 ・対策実施状況について 有害鳥獣捕獲頭数は市町村より令和5年12月地点の数値を聞き取った。参考として令和3年、令和4年の捕獲数を掲載する。協議会構成員が実施しているエゾシカ対策の実地場所を地図上に示した。
環境事業計画 勝井	資料2 ①-5の説明 令和6年度に実施予定の捕獲試行に向けた取り組み計画（案）を作成中である。GPS 首輪装着個体のデータを解析し、捕獲適地を抽出。捕獲適地からインフラ状況を考慮したうえで捕獲候補地を抽出し、それぞれの場所に合った捕獲手法を検討。予算や人員を考慮した上で取り組み計画（案）を作成する。
環境省 岡野	環境省の取り組みについて質問はあるか
道総研 稲富	資料2 ①-4について それぞれの機関が実施しているエゾシカ対策が整理され、表や図面で見られるのは協議会の成果である。有害鳥獣捕獲頭数について、エゾシカの個体数管理を考える際にはメス個体の捕獲数が重要である。全体の捕獲数のうちメスの数を入れてほしい。
環境省 上畑	雌雄別ではなく捕獲数の総数を聞き取っている。今後はメスの捕獲数を記載できるよう調整を図る。
環境省 岡野	市町村では雌雄別の捕獲数を記録しているため、今後は分けて整理することが可能か。市町村には情報提供に協力願いたい。
道総研 長	資料2 ①-5 捕獲適地の点数は銃猟禁止地域等の制度が重なる方が、点数が高いのか。
環境事業計画 勝井	その通りである。
道総研 長	銃猟禁止区域でも有害鳥獣対策となると規制緩和が可能である。様々な条件を入れた解析を行うと結果が変わってくる。道、市街地、河川に近いなど。
環境省 柳川	守るべき対象がある場所を重点的に選定している。
道総研 長	環境としてコアなところを選んでいるという考え方を理解した。 植生が危機的状況の場所は優先的に対応が必要。植生を含めたミクロな情報を加

7-5 エゾシカ協議会 議事録

	味した適地抽出をすべきだと考える。
環境省 岡野	インフラ情報等を加味した捕獲候補地選定を進めていきたい。
(1) 今年度実施事業の結果報告	
環境省 岡野	続いて、根釧西部森林管理署の取り組みについてご報告をお願いしたい。
根釧西部森林管理署 吉岡	資料2 ②の説明 阿寒湖畔地区にて平成26年度から、川湯地区にて令和3年から大型囲いわなによる捕獲事業を実施。 阿寒湖畔地区の囲いわなによる捕獲は伸び悩んでおり、今年度は捕獲を休止。職員による痕跡調査等を行い、来年度以降の設置箇所を再検討して捕獲を実施したい。 川湯地区では12月1日から3月11日まで事業実施。令和6年1月末までにメス11頭を捕獲。来年度以降も同じ箇所で実施予定だが、過去3年間毎年10頭前後の捕獲であり伸び悩んでいるため誘引方法等検討したい。
環境省 岡野	次に北海道よりご報告をお願いしたい。
北海道 仲澤	資料2 ③の説明 指定管理鳥獣捕獲等事業にて標茶町内及び津別町道有林内で囲いわなによる捕獲を実施。津別町道有林では昨年12月末時点でメス3頭、オス2頭、合計5頭の捕獲があった。2月29日まで捕獲事業実施予定。厚岸町、浜中町でも捕獲事業を実施。 環境省交付金である指定管理鳥獣捕獲等事業にて道内12地区で各事業を実施。農水省交付金として都道府県広域捕獲活動支援事業、北海道としては捕獲困難地対策事業という名前で4つの地区にて対策を実施。令和4年度から実施し、現在2年目。来年度も同等の規模で実施予定。 農水省の交付金、鳥獣交付金、シカ特別対策には補正予算が計上されており、それらを利用した捕獲事業を実施予定。
環境省 岡野	次に前田一歩園財団よりご報告をお願いしたい。
前田一歩園財団 時田	資料2 ④の説明 2000年から2005年までに約1,000頭のエゾシカを捕獲。2010年の607頭/年が最大捕獲数。その後2014年にかけて減少、2021年以降捕獲数が上昇。2022年は157頭/年を捕獲。捕獲効率(一回の捕獲に対する捕獲頭数)は、捕獲開始直後で最も高い。2022年度の捕獲効率は8頭程度。 冬季に給餌を実施。2017年以降給餌場でのエゾシカを目撃頭数が増加。2023年に過去最高値。2023年は捕獲期間中90頭を目撃頭数を記録。 過去最多の7基の囲いわなを設置。ヒグマが侵入し、2023年4月以降稼働を制限し、捕獲を休止したわなが1基ある。 令和5年度、2月13日までのエゾシカ捕獲頭数は63頭。メス49頭、オス14頭、メス捕獲率が約77%。3月末まで捕獲を実施予定。1日あたり9頭が平均捕獲数。今年の捕獲頭数は171頭程度、去年より少し多い捕獲頭数になる見込み。

7-5 エゾシカ協議会 議事録

環境省 岡野	次に小清水町よりご報告お願いしたい。
小清水町 清水	<p>資料2 ⑤</p> <p>水上牧場、町有林において5月15日から12月20日にエゾシカ捕獲事業を実施。囲いわな2基は放牧期間中から11月末まで、くくりわな2基は放牧期間外に実施。囲いわなに於て8頭、簡易囲いわなに於て4頭、くくりわなでは水上牧場で16頭、町有林で14頭の捕獲。</p> <p>牧場南側の河川エリアにてシカ柵の破損箇所から侵入することから、そこで捕獲を実施。時期によっては誘引餌を使用。小麦種子はヒグマが誘引されるため撤去。ミズキの実がついた枝葉が最も誘引効果高い。扉の動作不良による捕獲失敗事例あり。</p> <p>人による囲いわなへの追い込みを試験的に3人体制で2回実施。1回目は1頭、2回目は8頭追い込んだがいずれも捕獲に至らず。</p> <p>次に10人体制で2回実施、1回目は3頭を追い込むが直前で逃げられる。2回目はエゾシカを確認できず終了。</p> <p>くくりわなは牛の放牧期間外に実施。5月22日にヒグマを錯誤捕獲し、銃器による止めさしを行った。6月2日から水上地区の町有林にてくくりわな捕獲を実施。6月5日、わなにかかったエゾシカをヒグマが持ち去り、全わなを停止。6月9日より一部再開、持ち去りのあった箇所では別のヒグマ3個体を継続してセンサーカメラで確認。6月27日、ヒグマによるエゾシカの捕食確認、5日間全わなを一時停止。その後センサーカメラにヒグマが映らなくなったことを確認の上、捕獲を再開。くくりわなは毎日見回りが必要なため、現在は囲いわなのみに絞って捕獲を実施。広大な放牧地は餌が豊富でわなにピンポイントに誘引することが難しい。対策として通過式（牧場に入った瞬間に捕獲する方法）を実施するも、目立ちやすく警戒心を抱く。わなを避け他の箇所から侵入、柵の修繕を続けているが侵入経路が増加。囲いわなの入り口に誘導することが困難。</p>
環境省 岡野	ここまでのご報告に対して質問はあるか。
弟子屈町 西内	資料2 ③について、北見市～佐久間町、釧路町～阿寒町という書き方はわなの設置場所が決まっていないのか。
北海道庁 仲澤	市町村の境界付近での実施の場合、このような表記になる。
弟子屈町 西内	資料2 ⑤について、小清水町の簡易囲いわなについて、仕組みとしてけり糸を使うと説明があったが、シカが触れると糸が切れて扉が閉まるという仕組みか。その場合、1回1頭ずつしか取れないということか。
小清水町 清水	餌箱に糸が付いており、糸に触れると扉が落ちる仕組みである。 わなの大きさに於て2頭が限界。実際はほとんどが1頭ずつの捕獲となっている。
酪農学園大 立木	小清水町での囲いわなによる捕獲は資料2①-4の場所か。 捕獲適地（案）でいうと、何点の場所で捕獲したのか。 銃器の使用は選択肢として無いのか。
小清水町 清水	そうである。（点数については不明だが）GPS首輪により冬に弟子屈町で過ごし、

7-5 エゾシカ協議会 議事録

	<p>夏に小清水町に移動していることがわかっている。</p> <p>放牧期間中は牛がいるため銃器による捕獲ができないが、放牧期間外は銃器を使用している。その際は行けばおおよそ捕獲が見込める状況。</p>
道総研 稲富	<p>囲いわなの場合、捕獲後の個体の処理に苦労するのではないかと？</p>
根釧西部森林管理署 吉岡	<p>釧路では捕獲個体の受け入れ先が限られる。北泉開発株式会社が担っている。北泉開発も様々な自治体等から個体の受け入れ依頼を受けているので、毎日の捕獲は難しい。個体処理時の苦労については、現場での作業を一任しているので詳しいことはわからない。捕獲個体の処理は業者が少ない部分でなかなか手が回らない。</p>
前田一步園財団 酒井	<p>有限会社一步園林業に捕獲個体へ処理を委託している。以前は6名体制で実施していたが、現在3名で対応。</p> <p>昨年度は北泉開発が搬出に來られないということもあったが、北泉開発には柔軟に対応いただいている。</p>
小清水町 清水	<p>有害駆除の場合、町内の処理場で埋設処理している。あと3年で埋設施設がいっぱいになるが、その後の対応は決まっていない。</p>
<p>(2) 今後の情報共有のあり方及び仕組み検討について</p>	
環境省 岡野	<p>次に、情報共有のあり方について環境省から説明されたい。</p>
環境省 上畑	<p>資料3の説明</p> <p>環境省では協議会構成員が有している情報を集約し、共有するための仕組みとして環境省オンラインストレージサービス上に共有フォルダ「am-deer」を構築。共有フォルダ上に各種ファイルをアップロードする。構成員個人に発行されたユーザーID及びパスワードを使用し、共有フォルダにアクセス。必要なデータをダウンロードすることが可能。</p> <p>特に GPS 首輪装着個体の位置情報は構成員への聞き取り調査にて需要が高かったことから、現地研修会では位置情報を保有したデータを閲覧、編集することが可能なツールを紹介。</p> <p>今後の方針として、共有フォルダ「am-deer」にはいくつかの課題があることから、引き続き改善策を検討する。また、次年度以降は環境省内で ArcGIS オンラインの導入が予定されており、それらの活用についても検討したい。</p>
津別町 上原	<p>人事異動で職員が変更となった場合、今配布されているIDは変更になるのか？</p>
環境省 上畑	<p>ユーザーID及びパスワードは個人名に紐付けられているため、担当者が変更、追加された場合は環境省に連絡願いたい。3日程度で新しいIDの配布が可能。</p>
前田一步園財団 酒井	<p>情報だけ共有されてもイメージがわからない。共有されたデータの活用方法を具体的に示して頂き感謝する。次年度以降も資料3参考のような資料の共有を希望する。9個体のGPSデータを見ると、冬季に留まっているエリアがあるので囲いわなを利用すると良いのではないかと。構成機関がそれぞれ適した時期に捕獲を行なうことでお互いに助かっている。情報が集まるようになったので、広域的に春夏秋冬で効果的な捕獲の計画を立て、連携していけると良い。さらに捕獲計画の提</p>

7-5 エゾシカ協議会 議事録

	案等もいただけると良い。
環境省 岡野	正に共有された情報を基に連携した対策を進める事は本協議会の目的である。来年度以降も情報共有のあり方、効率的な方法、構成員のニーズを吸い上げ、使い易くかつ効果のある情報共有の仕組みを検討していく。データの共有と地図化に基づく取り組みが重要であり本協議会の役割としてぜひ進めていきたい。
酪農学園大 立木	様々な情報が入っているのでぜひ各自治体にはご確認いただいて業務に活用してほしい。技術は日進月歩で進化するものであり、今後も情報共有のあり方を検討していく。現地研修会で情報共有の仕組みの検討も去ることながら、他の市町村の技術や課題等を共有できたのは良い。今後もそのような会議があってもよいのではと思う。
(3) 次年度の予定	
環境省 岡野	次年度の予定について環境省から説明されたい。
環境省 柳川	資料1の説明 令和6年度の実施予定の項目において当初予定より変更になった箇所を緑色で示す。情報共有のありかた検討、仕組みづくりについては今後も引き続き改善策を検討する。天然更新を目標とした手法検討については継続して植生調査は継続しており、それらのデータを基に検討を進める。摩周地区における捕獲試行については、捕獲候補地の検討及び手法検討を実施予定。
環境省 岡野	北海道では今後の捕獲対策について方針はあるか
北海道 仲澤	北海道の令和6年度予算については、国のシカ特別対策を踏まえ、予算を拡充して計上をしており、シカ特別対策を活用した新規事業の実施を予定している。 また、市町村関連については、従前の鳥獣交付金メニューである緊急捕獲や推進事業の他、シカ特別対策を活用した捕獲事業の実施が可能となった。こちらは推進事業と異なり、実施隊の規模に関わらず上限金額が一律300万円とされていることから、市町村での活用を検討いただきたい。
(4) その他	
酪農学園大 立木	捕獲に関する話が多いが、シカの増加がなかなか止められていない。 捕獲にも限界があるため、フェンス等他の対策を含めた総合的な対策を検討する必要がある。どこをどのように守るのか効果的な対策・計画を協議会で話し合えると良い。
環境省 岡野	次年度の協議会に向けて検討する。
道総研 長	全体の頭数や密度を算出して目標設定する必要がある。
道総研 稲富	捕獲は進んでいるが、捕獲の効果を可視化することが大事。道総研の役目でもあるので協力して進めていきたい。